

2021/10/6

商品企画部
中島 三養子

マーケット・フォーカス

商品：原油、天然ガス

原油は7年ぶり高値、追加増産見送りと厳冬予想

- OPEC プラスの追加増産見送りで原油は7年ぶり高値
- 天然ガスは、厳冬予想から暖房需要の高まりが見込まれている
- WTI 原油先物価格、21年10-12月期の想定レンジは1バレル=60~90ドル

OPECプラスの追加増産見送りで原油は7年ぶり高値

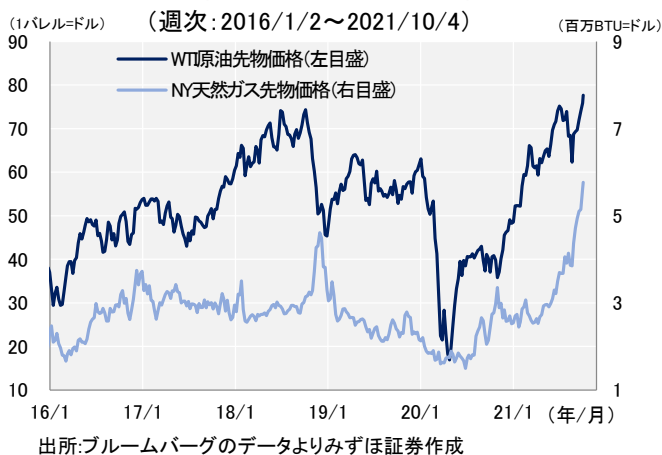
足元のWTI原油先物価格は1バレル=78ドル台後半と、約7年ぶりの高値に。石油輸出国機構(OPEC)と非加盟産油国を含むOPECプラスは10/4の閣僚級会合で、11月も減産幅を日量40万バレル縮小する方針を確認した。米ホワイトハウスはインフレ懸念から、OPECプラスに対して追加の増産を要請していたため、市場では追加増産を検討するとの見方も高まっていた。これに反し、増産を見送ったことから、需給ひっ迫観測が強まった。次回会合は11/4の予定。OPECプラスの現行ペースでは、減産縮小の終了は2022年末の見通し。このペースが維持される場合、原油価格にはさらなる上振れ余地も。世界的な経済活動の再開による需要増や、米国企業の脱炭素化に絡む投資抑制、さらにハリケーン被害による供給減も加わっている。

天然ガスは、厳冬予想から暖房需要の高まりが見込まれる

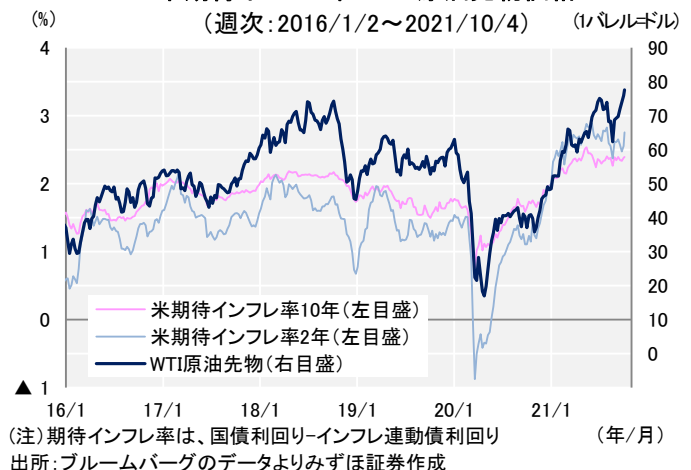
また、天然ガス需給のひっ迫も原油相場の上昇圧力となっている。NY天然ガス先物価格は歴史的な高値に。天然ガスはロシアの供給が伸び悩んでいるほか、北半球の厳冬予想が重なり、暖房需要の増加が見込まれている。

以上の点から、当面の原油市場は堅調に推移する見通し。一方、OPECプラスが追加増産に踏み切れれば上値が重くなりそうだ。21年10-12月期の原油価格は、1バレル=60~90ドルを想定する。足元のインフレ懸念が、エネルギー高によって強まるおそれがある。

WTI原油先物価格とNY天然ガス先物価格



米期待インフレ率とWTI原油先物価格



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したのですが、その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-211006-03